令和4年度(2022年度) 松本美須々ケ丘高等学校 学校自己評価表（最終評価）

78 長野県松本美須々ケ丘高等学校

Ⅰ 教育目標とグランドデザイン　評価は、A（十分）、B（おおむね十分）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」	B	日常的に新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、地域に生徒が出ていく機会をより多く取り入れ、教科学習、探究活動、自主講座などに地域の教育資源を活用して、バラエティに富んだ学習活動が実施できた。今後も引き続き教科の枠を超えた協力体制を構築していく。生徒・教職員が協働して対話を重ね、工夫して諸活動を実施した。地域とのつながりを更に模索し、本校の活動を発信し、ブランディングに繋げていく。

松本美須々ケ丘高等学校 「3つの方針」

目指す学校像　地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校

DP：生徒育成方針　グローバル化が進展する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。
CP：教育課程編成・実施方針　地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。
AP：生徒募集方針　基本的生活習慣が身についており、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。

令和4年度(2022年度) 重点目標 （平成30年度～令和4年度 中期目標）

(1) 多様な進路希望に対応できる教科指導と進路指導の充実により、生徒一人ひとりの進路実現を保証する。
(2) 学習活動・課外活動・部活動など様々な場面で課題を発見し、その解決のために生徒自らが目標を設定し、主体的・意欲的に学ぶ姿勢を育成する。
(3) 地域や国際社会に目を向けさせ、校外での積極的な活動を通して社会性やコミュニケーション能力の向上を図り、地域の期待に応える「地域の中の学校」づくりを進める。
(4) 積極的に情報を発信することで、家庭との連携を図り、複雑化する社会・家庭環境に柔軟に対応できる安心安全な（体罰やいじめなどのない）学校づくりを進める。
(5) 相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の形成者としての考えを醸成する。
(6) いかなる環境下においても生徒の学びを継続し、これからの社会に必要な資質・能力を育成するため、ICTを積極的に活用した学習方法を確立し、家庭と協同して学習面、生活面、精神面の支援に努める。

Ⅱ 今年度重点目標（部署別）　評価は、A（十分）、B（おおむね十分）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階

部	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点（具体的な取り組み）	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
教務	(1)(2)(3)(4)(6)	①授業や諸行事、会議等が円滑に行われるように努めると共に、関係各署と密に連絡を取り合う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・会議の効率化が図れたか。	①	B	新型コロナウイルスの関係で体験入学及び秋季クラスマッチの全校での開催は中止となった。どちらも関係する部署と連絡を取り合い、代替の行事を滞りなく実施することができた。また、オンラインによる授業の配信や始業式等の教室への配信も大きな問題なく実施できた。	例年通りではなく、諸行事について精査していきたい。 また、会議におけるICT機器の利用等についても検討を進めたい。
		②本校の取り組みに関する情報の発信を積極的に行う。	・公開授業、体験入学、webページの更新、中学校訪問、連絡メール配信などが効果的に行われたか。	②	B	体験入学は中止となったが、代替行事として授業公開を3日間実施し、中学生に対して本校の様子を知ってもらう機会とすることができた。また、HPの更新もタイムリーに行うことができた。	学校評議員会や中学校訪問において、情報の発信についてご意見をいただいた。HPの更新だけでなく、その他の発信方法について検討を進めたい。
		③今年度以降の様々な改定による諸課題に迅速に対応するよう努める。	・新教育課程における学習評価について研究を行うことができたか。	③	B	各科の教育課程委員を中心に検討を重ね、新しい評価方法に対応することができた。今後も評価方法について研究を継続する。	評価方法の変化に伴い、評価の材料等についても研究を重ねていきたい。
		④安心して通える学校づくりに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。 ・校内の危険箇所の把握に努めることができたか。	④	B	校内の危険箇所を把握し、改善を行うことができた。また、全校生徒が参加した避難訓練を実施することができ、必要な体制を整えることができた。	来年度も安全管理が効果的に行われるよう取り組みたい。
		⑤ICTを活用した授業力向上のため、教員が互いに授業を参観しやすくなるよう努める。	・授業参観週間を設定・実施できたか。	⑤	B	各学期に1週間ずつ参観週間を設けることができた。また、昨年度と比較しロイロノート等を活用した授業の実践が増加した。	参観週間を設けるが、実際に参観する職員数を増やせるよう今後研究を重ねていきたい。
進路指導	(1)(2)	主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会を通して計画的、組織的な指導をする。その際に、生徒が自分の能力や適性を的確に把握できるよう、また、生徒に地域や国際社会にも目を向けさせることに留意する。	・個人面談、LHR、学年集会、進路の日、などの企画運営を通して、生徒が自分について考え、進路意識を高め、進路選択をする機会や資料を与えることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。	①	B	年度当初の計画に基づいてコロナウィルスの感染防止対策をとりながらオープンキャンパスを含め、講演会や研究会などの進路機会を与えることができた。2学年では、外部講師による講演会も行い、意識を高めることができた。	進路研究の充実と職業体験や大学等の1，2年時の選択科目調査と進路希望調査の連携からのオープンキャンパスへの参加など早期の進路意識の向上を図るようにする。3年生は、具体的な進路実現に対する体制を作る。
	(1)(6)	予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。 ClassroomやClassi、ロイロノートなどの活用方法を研究し活用を促進することで、生徒の家庭学習の補助をする。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・ClassroomやClassi、ロイロノートなどを利用した動画配信を生徒に活用させることができたか。	②	B	GoogleClassroomやロイロノートの活用により、学習意欲を高められたが、学習時間の確保に向けての意識を向上させることが十分できなかった。ICTの活用は進んでいる。	家庭学習の時間を確保のために、試験2週間前からの学習記録表を提出させるなど具体的な方法論を学年と話していく時間をとりたい。
	(1)	生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、教科や学年に助言と協力を求める。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。	③	B	模擬試験の結果の職員間共有が十分ではないが、面接指導や進学先の情報などの指導に役立てることができている。	模試結果など学年通信等で報告されているので、学年内での情報共有ができている。学校全体での共有にするための方法論を展開したい。
	(1)(4)(6)	いかなる環境下においても学びを止めさせないために進路に関わる情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、家庭と協同し生徒の学習面、生活面、精神面の支援をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会やマメールを使った発信をしたか。	④	A	各学年で定期的に学年通信を発行し、生徒や保護者にも情報が共有できるようにするだけでなく進路の情報提供も進路の手引きなどの活用により対応している。	全体的に詳しく時世に合った情報発信はされているので、継続的に対応したい。

部	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点（具体的な取り組み）	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
生活指導	(4) (5)	①生徒が気持ちよい挨拶ができ、交通ルール、交通マナーの徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	①社会や学校のルールを確認させ、遵守させる指導ができたか。生徒が事故を身近に感じる交通安全指導ができたか。	①	B	本年度の交通安全教室で、スケアードストレイトのビデオを見せて、交通安全と交通マナーを指導した。身近で高校生の自転車死亡事故があったことを伝えて、ヘルメット着用を呼びかけた。毎月、職員の立ち番指導で自転車マナーの注意など行っている。生徒の交通マナーの悪いと苦情を受け、立つ位置と人数を増やして対応した。事故件数は17件と昨年度の同じ時期の10件に比べ増加している。一昨年は16件。	ヘルメット着用が努力義務とされ、松本市が高校生に補助金を交付してヘルメット着用を推進している。令和5年4月から市内の高校に対して補助金を交付していく計画で、本校でも新1年生だけでなく、全学年生徒に向けて、ヘルメット購入を呼びかけていく準備を進めている。また生徒会役員にも協力をしてもらい、ヘルメット着用推進の研修会に参加をお願いしていく。
		②生徒との面談機会を増やし、生徒のようすを細かく観察する。マメールを発信し、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。	②HR指導、頭髪指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて生徒・家庭の意見に耳を傾け、的確に対応できたか。	②	B	各学年とも学年通信とメール配信で学校のようすを保護者に伝えている。挨拶運動では、生徒会が自主的に校内で行い、職員も協力している。校外での立ち番指導も人数を増やし場所を追加して行った。校内巡視も継続的に行っている。	保護者へのメール配信と学年通信は次年度も継続して行っていただけるとありがたい。挨拶運動だけでなく交通マナーの徹底などでも、生徒会と協力して生徒への呼びかけを行っていきたい。
		③職員が生徒の小さな変化にも気づき、情報を共有し、他部署と連携して初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。特にSNSの使い方と成人年齢が18歳に引き下げられたことについて、生徒に注意を喚起し、適切に指導できたか。	③	B	SNSの使い方とマナーについて、1年生は入学してすぐに行う必要性を感じた。LINE、インスタグラムに関わるトラブルが、3件発生した。学年と生活指導ですばやく対応して,大事には至らなかった。年1回の学年集会での講話だけでなく、折に触れてSNSの使い方の注意を喚起している。成人年齢の18歳引き下げについては、全体に周知させるとともに、各教科で授業の中で触れてもらってきた。	SNSの使い方で問題となったりトラブルにつながるケースで、LINEよりインスタグラムの方が増えている。時間がたつと消去される機能を使っているため指導に入れないケースもあった。1年生は入学してすぐに使い方とマナーについて警察のスクールサポーターの協力を得て、研修を行う必要性がある。地域の生活指導連絡会でも、各学校で、トラブルが発生していて、学校間で情報を交換し対応していくことが大切だ。成人年齢引き下げについては、3月の特編授業で周知させるとともに、次年度の授業で各教科に触れていってもらえるようにしていく。
生徒会	(2) (3) (4) (5) (6)	①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。	①	A	・双蝶祭やクラスマッチなど、生徒会行事や生徒会が関わる活動において、コロナ対策も含め生徒が主体的、実践的に取り組めるよう支援することができた。 ・新体制では、役員の考えを話合いに反映させるため、事前アンケートを実施している。	引き続き、これまでの活動も生かしながら新しい発想を引き出せるよう支援していく。
		②集団や社会の一員としての自覚を深め、コロナ禍でも可能な方法で保護者・地域との連携を図る。	・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。	②	B	・双蝶祭の一般公開では、展示だけでなく、露店も行い、保護者を含め家族に来校いただき、生徒の活動を見ていただくことができた。 ・「豪雨災害義援金」の募金活動や、校外清掃に積極的に取り組むことができた。 ・福祉施設でのボランティアや盲学校との交流等、コロナ以前のような地域と関わる活動は今年も出来なかった。コロナ禍で地域との連携を図る方法を今後検討していきたい。	・社会福祉協議会と連携を図るなど、コロナ禍においても広く社会へと目を向け、自らが主体的に興味関心を持って関わることのできる可能性を模索していく。
		③健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。	③	A	コロナ禍で制限はあるが、できる範囲で活発な活動を推進することができた。	活発な活動のためのヒントとなるようなアイディアを提供するとともに、生徒との協働を図る。
		④相互に尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。	④	A	・知り合いでない人との関わりが得意ではない生徒が増えているためか、役員全員が円滑なコミュニケーションを取ることは年々難しくなっているように感じるが、情報を共有すること、顔を見て直接話をすることなどを意識して行うことで、視野を広げ他者を尊重する姿勢の涵養に繋がると考え、機会あるごとに働きかけを行った。 ・全盲の新入生への対応方法を学んだことにより、その生徒も参加できるクラスマッチの種目を考えることができた。 ・オンラインで開催された「高校生ICTカンファレンス」において、今年度は事前にテーマについてプレゼンテーションの動画を送らなくてはならなかったが、生徒同士が協力して動画撮影を無事終えることができた。当日は、他の参加者と交流し、テーマについて理解を深め、その成果を生徒会役員間で共有する場を作ることができた。	・今年度中に、県内各地区の高校生と意見交換できる文化祭ガイダンスや、自転車乗車中のヘルメット着用推進に向けた「高校生サイクルサミット」に関係役員が参加し、今後の生徒会活動に役立てるため役員間で情報を共有し、新たな活動へとつなげたい。 ・地域や未知なる分野へ興味関心を持てるようなきっかけづくりを継続して行い、各自が得た情報や考えたことを共有する場を多く設定し、視野を広げ他者を尊重する姿勢を今まで以上に養えるように工夫を図りたい。
		⑤コロナ禍で生徒会活動や部活動が制限される状況において、生徒が前向きに取り組み、コロナウイルス感染防止対策をしながらの新しい生徒会活動を作り上げていけるよう支援していく。	・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。	⑤	A	・昨年度の活動を参考にしながら、双蝶祭では新しい企画を考え試行錯誤の上、実現することができた。 ・コロナ禍で初めて対面とgooglemeetを組み合わせハイブリッドでの生徒総会を行った。様子がわからない中ではあったが、役員が協力し、試行錯誤しながらも新しい形の総会を作り上げることができた。	・感染防止対策をしっかり行うことで、コロナ禍以前のような活動を行うことができる機会が増えることが考えられるので、熟議の場を設け、役員が自ら考え、意見を述べる機会を作ったり、他校の様子や学校以外での取り組みなどの情報を提供したりすることで、新しい生徒会活動の構築を進めたい。今後、役員による双蝶祭ミーティングを行い、コロナ禍での新しい文化祭の形が構築できるよう支援していきたい。

学年	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
情報処理	(4) (6)	①使いやすさとセキュリティの高さという相反する目的を達成するため常時ネットワークの運用管理に心を配る。	・校内WebやC4thの活用が十分にでき、先生方の働き方改革に対応、応用できたか。	①	B	公の職員向け校内セキュリティ講習が充実してきたため、ここ数年でかなりの数の職員が情報技術を向上させてきている。課題は、一人一台PCの遅さと、WindowsのOSの更新や県の校務支援システムへのログイン時の強靭化などの更新がスムーズに行かない先生方への対応である。	なるべく、こまめに対応マニュアルを配布したり、地道に空き時間を見て個々に対応をしたことで年度後半にはかなり改善した。
		②校内Webの整備と改良を充実させ、その対応をする。 先生方への周知および、連携をとり、さらなる校内のICT化に向けて研究を行う。	・年1回程度を目標に職員向けの校内セキュリティ講習や、新システム導入講習等を実施し、セキュリティ意識・技術の向上や、C4th活用の為の職員全体の技能の向上をはかる。	②	A	校内Webの整備改良を引き続き行ってゆきたい。欲しいデータがどこにあるのかわかりやすく提示できるとなおよい。OSの進化によってブラウザが新しくなったため、従来のHTMLと変更になった部分があり、多少見え方の不具合があったので修正を重ねてきた。	欠席、欠課の入力や、タイムカードの入力などC4thはかなり浸透した。通知表、成績会議資料の作成など従来情報処理部で担ってきた大きな部分がかなり解消された感があるため、次年度より情報処理部を廃止する方向で検討が進んでいる。
清美	(2) (3)	①清美委員会と協力し、ごみの分別・可燃ゴミの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ごみの分別徹底により、可燃ごみの削減ができたか。 ・ごみ回収の際に、コロナ感染予防に努めることができたか。	①	B	①可燃ごみ R2年(4-11月)2,480kg(37,200円) R3年(4-11月)3,270kg(49,050円) R4年(4-11月)2,710kg(40,650円) 今後も分別を徹底し、可燃ごみ削減を目指す。	①コロナ・衛生面から、生徒が各分担区から出たごみをごみ袋に詰め替える収集方法に問題があるように感じる。近隣校のように専用の容器に入れ、業者に学校まで収集にきてもらえる方法に変えたい。引き続き、事務・校用の先生と相談し、方法を模索していく。
		②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・ごみ回収、大掃除、ワックスがけ、カーテン交換などの清掃計画は適切であったか。 ・校舎内外の清掃はきちんと行われていたか。	②	B	②予定されたごみ回収、大掃除、ワックスがけ、モップ交換等は、計画通り実施できた。年度末のカーテン交換も、計画通り行う。	②ワックスがけをテスト最終日に設定したい。平日の清掃時間では、時間が足りなかった。年歴を組む際に、要望を出す。
図書視聴覚	(2) (4) (6)	①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。	①	B	図書館資料の充実につとめ、生徒のリクエストにも答えながら、購入をした。電子黒板を始めとするICT機器が導入されたことで備品等も含め、細やかな配慮が必要で、連絡や連携をはかった。	機材の接触不良や画像が映らない、音声が出ない等のトラブルが時々起こり、苦慮するケースがあった。情報を共有し対応を考えていきたい。
		②図書館資料やICT機器を用いた授業における活用方法の研究を進める。	・授業における図書館資料やICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。	②	B	読書週間や旬間を始めとして図書館の資料活用を促す機会を作った。特設コーナーは好評であり、一層の資料の活用を促していきたい。ICT機器を用いた授業活用の研修会など職員への周知を図った。	必要に応じて積極的に研修会を実施していきたい。
		③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。	③	B	コロナ禍でのリモート授業など、ICT機器の活用は必須なので、さまざまな実践をサポートするよう努めた。文化祭では生徒会と協力することができている。探究などの授業で連携を模索し、円滑な学習支援できるよう研究を進めた。	学習面での連携を図るために情報を共有し検討を重ねる必要がある。
保健教育相談	(2) (4) (6)	①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握、情報共有し、チーム支援ができたか。	①	B	・学年会で出された生徒動向について部内で共有し、カウンセリングなどにつなげることができた。 ・各種検診も計画通り実施でき、健康状態の把握と共有を進めてることができた。 ・食の大切さや水分の補給について放送で呼びかけ、熱中症対策・救急用品の設置を行った。	・保健室が心のよりどころになっている生徒が例年複数人見られる。今後も継続して係だけでなく担任や保護者と情報を共有し、生徒の心身の成長を促していきたい。
		②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握し、家庭や外部機関とも連携していく。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。	②	B	・生徒の心身の状況を把握し、学年で共有することや担任面談の材料として活用できた。 ・コロナ禍の中で、メンタル面に不安を抱える生徒の増加が懸念されることにも対応を進めた。 ・スクールカウンセラーについては、重点派遣校として効果的な活用ができた。	・カウンセリングを実施する時間数が年々増加傾向にある。今年度は重点派遣校の決定を受けたが、来年度も本年度並みの時間数の確保が必要と感じている。 ・生徒のSOSに気づき、即応できる体制作りを一層進める。
		③新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかりと行い、校内での感染予防に努める。	・新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかりと行うことができたか。	③	B	・保健委員会生徒による朝昼の呼びかけ放送を継続して実施した。 ・感染対策をより一層確実にするために、教室の換気・マスク着用の徹底・手指消毒の励行などを促した。	・保健委員会の活動だけでなく教員による注意喚起や教室の換気、感染対策のより一層の徹底を今後も継続してお願いしたい。
渉外	(3) (4)	①学校と保護者、同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行う。	・保護者の意見や要望について関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることが出来たか。	①	A	本年度もコロナ感染拡大の継続により、参集してのPTA総会ができず、書面にて意見の集約・表決を行った。	PTA総会など参集できない場合も、PTA会長と連絡を丁寧に取り、書面等での丁寧な情報提供・意見集約を行いたい。また正副PTA会長会、理事評議員会など開催出来る範囲で開催したい。
		②PTA総会・評議員会・地区PTAとも、新型コロナウイルス感染防止のため参集が難しい場合は、速やかに代替の措置を立案し、会員に周知する。	・新型コロナウイルス感染防止のため参集できなかった会合の代替措置は適切であったか。	②	B	秋冬にかけてもコロナ収束の見込みが立たなかったため、周辺の学校の動向も参考にして、地区PTA懇談会の参集を行わなかった。代替措置として書面での丁寧な情報提供・意見集約を心がけた。	コロナ禍継続の中で、保護者の方が地区PTA懇談会を経験したことのない世代となり、次期役員決めの大変さに加えて、役選自体への疑問が複数寄せられている。周辺のほとんどの学校が同様の状況下で、既に地区PTAを廃止している事も参考に、本校も来年以降地区PTAの廃止を検討したい。

学年	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
探究指導	(1) (3) (5) (6)	①実生活や地域社会の中から、自ら課題を見つけ解決する資質・能力を育成する。	・外部との連携を深め、生徒と地域人材をつないだり、生徒の社会活動や体験活動への参加を促したりすることができたか。	①	B	生徒のニーズに応じて、松本市役所や松本市社協から適切な人材を紹介してもらうことができた。また「キャリア通信」などを通じて社会活動に参加する意義を伝え、各種社会活動の紹介を行った。パラスポーツ体験会や異文化理解を促す企画を校内で実施した。	活動への参加人数が思うように伸びず、参加するメンバーも固定化する傾向にある。生徒の心に響くような広報宣伝のやり方を検討し、募集の時期や方法にも改善を加えていく。
		②学習意欲の向上や資質・能力の育成に生かせる学習評価を研究する。	・学習到達度を明示したルーブリックを利用した学習評価を導入することができたか。	②	B	課題設定時のチェックリストや、プレゼン発表時のルーブリックを活用した学習評価の導入を部分的に進めた。判定方法が複雑であったり、評価基準にあいまいな点があったりしたため、改善が必要である。	1年間の評価の振り返り結果をふまえ、評価の方法や時期をさらに研究し、生徒にも評価者にもわかりやすく、かつ、生徒の学習意欲の向上につながるような年間の評価計画を作成し、年度当初に提示できるようにする。
		③教育的効果の高い指導方法や教材を研究する。	・他校への視察見学、指導方法の改善、新しい指導方法や教材の導入などを実行できたか。	③	B	生徒の視野を広げる目的で、1学年で動画サービス「Inspire High」を試験的に導入した。チェックリストやルーブリックを作成し、生徒に自己評価させる指導をとり入れた。	1年間の評価の振り返り結果をふまえ、評価の方法や時期をさらに研究し、生徒にも評価者にもわかりやすく、かつ、生徒の学習意欲の向上につながるような年間評価計画を作成し、年度当初に提示できるようにする。
		④校内グループワークや校外での社会活動等の協働を通じてコミュニーケーション能力を育むとともに、プレゼンテーションやポスターセッション等を通じて表現力を養う。	・協働を進める機会や表現活動を行う機会を設けることができたか。	④	B	2月の「MISUZU探究フェスタ」において1年間の学習成果の発表機会を設けており、それに向けての学習を進めている。その過程でレポートを作成したり、ICT機器を活用して情報や意見の交換を行ったりしている。	通常の学校生活とは異なる集団の中で協働を行う体験が不足している。地域の社会活動への参加を促していく。また、校外の発表会やコンテストなどにも参加しようとする自主性や積極性を育んでいく。
1学年	(1) (2)	①基本的な生活習慣を確立し、家庭学習も含め継続的な学習を身につけるよう指導する。同時に部活動等の課外活動との両立を目指し、そのための自己マネジメント力の向上を図る。	・計画性を持った生活スタイルを立て、充実した学習活動および部活動等ができるよう指導できたか。	①	B	入学当初は高校生活に戸惑った感があったが、それぞれのスタイルを確立しつつある。定期考査前に進路担当からのプリント等で予定を作成するなど計画的に準備する生徒も増えてきた。	しっかりした生活スタイルが確立できず、遅刻や欠席を繰り返す生徒が少数いる。粘り強く自覚を促していきたい。
	(3)	②探究型学習の内容を計画性を持って進め、身の回りにある様々な問題を意識させる。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	②	A	インスパイアハイを教材として導入したことで、自分の将来を考えるきっかけを作れた。	探究ではなかなかテーマが決まらず、問題を掘り下げられない生徒もいた。
	(4)	③学年通信・学級通信等も含め積極的に学校からの情報を発信し、家庭と協力することで生徒の安心安全な生活をサポートする。	・家庭と連絡を密にし、生徒個々の状態を把握することができたか。	③	B	定期的に学年進路通信を発行し、情報発信に努めた。	学級通信の発行が担任によってまちまちである。
	(5)	④自己を大切にするとともに他者を理解尊重する姿勢を養う。	・自己肯定感を醸成し、多様な価値観を持つ他者に対する配慮ができるよう導けたか。	④	A	年度当初は対人関係のいざこざもあったが、落ち着いてきた。視覚が不自由な生徒にも周囲は自然に接している。	自己満足度が低い生徒がいる。全員がいずれかの場所で活躍できるような環境を作っていく。
	(6)	⑤急な臨時休校などを見越して、GoogleclassroomなどICTを日頃より積極的に学習活動・HR活動に活用していく。	・臨時休校を想定して、連絡メールや学年通信・学級通信、授業動画配信などを計画性を持って準備および実施できたか。	⑤	A	コロナなどで出席停止の生徒への授業配信は上手く機能している。BYOD導入初年度だが、学習活動・HR活動等にタブレットが活用されている。	ICT環境、タブレット端末のさらなる活用。
2学年	(1) (2) (4) (5) (6)	①生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築き安定した状態で学習に打ち込めるようにする。 ②学業と部活動の両立に向け、生徒自らが目標と計画性を持って行動できるようサポートする。 ③入試改革に向け各自が積極的かつ詳細にわたる進路選択を行えるようにする。□ □	・各生徒の身体面・精神面の状況把握ができるような個人面談が実施できたか。 ・生徒の進路希望について相談にのり、適切な情報を提供できたか。	① ② ③	B	・対人関係や盗難等のトラブルが多少あったが、面談等を丁寧に行い解決に向けて努めた。 ・学年通信等で進路の情報を提供することで意識の向上に繋がった。また、個人面談をしっかり行い、進路実現に向け前進できた。	・安心安全な学校生活が送れるよう、生徒とのコミュニケーションを大切にしながら様子を見ていきたい。 ・基本的生活習慣、学力の向上や新しい入試情報の提供と対策等、引き続き、進路実現に向けて対応していく。
		④探究型学習の内容を、秋の研修旅行と結びつけながら計画的に進めいき、「探究フェスタ」へと繋いでいく。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	④	A	コロナ禍で校外での活動に不安もあったが、まち探、SDGs（秋の研修旅行）では、各班、探究のサイクルを回し、しっかりと活動が行えた。成果発表の「探究フェスタ」に向けまとめができた。	研修旅行におけるSDGsツアーは大変有意義であったが、探究の班活動での内容の差別化という点では課題が残った。今後さらに研究したい。
		⑤Classi、GoogleClassroom、ロイロノート等を、日常で有効活用するとともに、急な休校等に備える。	・日頃のSHR（出席確認・健康チェック）や授業、また、学年・学級通信配信など家庭との連携に有効活用できたか。	⑤	A	各種ICTの活用はHR活動、保護者への連絡手段として有効に機能させることができた。	Classi、GoogleClassroom、ロイロノート等の活用については、さらに研究を進めてよりよい使用法を模索する。
3学年	(1) (2) (4) (5) (6)	①大学入試共通テストをはじめ、さまざまな入試、進路情報を提供しながら、生徒一人ひとりの進路実現の具体的なプランと実践を支援していく。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。 ・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。	①	A	進路通信の発行や個別の面談を行うことで生徒一人ひとりの進路実現をサポートした。多様化する入試方法にも対応できるように情報を収集し共有した。	特編授業はもちろん共通テスト対策を普段の授業の中でも工夫しながら指導したい。
		②安心して学習活動や学校生活が送れるように環境にも配慮し、充実した高校生活を送れるようにサポートする。	・クラスを中心として学年、学校全体で生徒の支援が出来たか。	②	A	進路面談や健康観察を含めて日常生活の中でも生徒との会話を大切にした。	今後もコロナ感染症が継続するならばオンラインでのサポートを更に充実していくことが必要と考える。
		③コロナ禍の影響による不安や心配をできるだけ減らすように心掛け、生徒の心理面でのケアに留意し、協力し合う。	・各生徒の身体面・精神面の状況把握ができるような個人面談が実施できたか。	③	A	生徒の体調を優先しながら、出席停止、オンライン授業などコロナ禍の不安を払拭するように心掛けた。個人面談の機会も増やして実施した。	不登校の生徒に対して、学年として更なる情報共有と連携する必要がある。
		④探究型学習を通して、自分の進路を考察し、積極的に社会を形成する意識を育てる。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	④	B	進路実現を図るために有効に活用しようと工夫した。主体的に取り組む姿勢も見られるようになった。	総合選抜型入試にも活用できるような内容、プレゼン能力を養えるようにしたい。
		⑤緊急事態等に備えた対応を考え、GoogleClassroom等をスムーズに活用し、研修、実践していく。	・臨時休校を想定して、連絡メールや学年通信・学級通信、授業動画配信などを計画性を持って準備および実施できたか。	⑤	B	入学時以来続いたコロナ対応で授業やクラス、学年運営では円滑な対応ができた。	更に使いやすくスペックの高いハード、ソフトの導入を期待したい。同時に生徒及び職員の研修も行っていきたい。

教科	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
国語	(1) (2) (4) (5)	①論理的思考力を高めるとともに、自らの考えを的確に表現し、他者の意見を正確に捉えられる力を育てる。	・目標達成に資する適切な教材を設定することができたか。 ・授業に関わる情報交換をしつつ、教員同士が互いの授業を参観するなどして、授業力向上を図れたか。	①	B	・評論等を通して論理的な思考力の育成に努めた。他者の意見を的確な言葉を用いてとらえるように配慮しながら授業を展開した。 ・異なる他者や多様な立場を理解するための教材を選び、多角的な視野を育むように心掛けた。	授業に関わる情報交換や授業参観の機会については、十分とは言えなかったが、引き続き授業力向上のために情報の共有を進める。
		②生徒と教員、また生徒同士が活発にコミュニケーションをとれる時間を設け、ツールとして、ICTの活用を研究する。また、生徒自身が主体的に問題に取り組み、その解決策を考えるとともに、我がこととして捉える姿勢を作る。	・考査に論述問題を入れることで、入試を見据えた論述力養成の効果が表れたか。 ・漢字や古文単語などの小テストを通じて、語彙力の定着を図ることができたか。	②	B	・論述力を高める授業作り、生徒が主体的に取り組んだりするための情報機器の活用を図る工夫を進めた。 ・定期的な小テストやドリルで基本的な語彙力、文法・文学史の知識などの定着を図った。	考査での記述問題や論述問題は、採点基準でも研究の必要がある。継続して情報交換をしながら検討したい。
		③探究的活動を取り入れた授業展開について、引き続き研究する。	・「助動詞かるた競技」「短歌大会」など、生徒が能動的に授業に参加する場面を増やすことができたか。 ・小論文、レポート作成等を定期的に取り入れ、各自の思考を書いてまとめる力の向上が図れたか。	③	B	・助動詞カルタや百人一首などを行ったり、俳句や川柳、標語などを創作させたりして能動的かつ主体的な授業を実践した。 ・小論文を意識して課題テーマ型問題を授業の中で取り上げた。	生徒の主体性を育む上でも、探究的活動は様々な工夫をしていきたい。
地歴公民	(1) (3) (5) (6)	①広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会を形成する主権者を育成する。	・通常の教科の授業に加え、学年や外部団体などと連携して、主権者意識を高める学習活動を企画できたか。	①	B	信州大学や税務署、税理士会などと連携して、政府の財政や租税の役割と仕組みを学び、公平な税制度を考えるワークショップを11月に実施した。生徒には好評であった。	参加者を増やすため、宣伝広報のしかたに工夫をしていく。また、4月の統一地方選挙にからめた学習活動ができないか企画検討する。
		②地球的課題に関する知識を身に付け、それらを解決しようとする態度、他国や他文化を理解し尊重していく態度を身につけさせる。	・ディスカッションやレポート作成、生徒による自己評価、定期考査などを通して知識の定着と理解が図れたか。	②	B	当事者意識を持たせるための「自分ならどうするか？」の問いに対し、自分の考えを表現する機会として、グループディスカッションやレポート作成など意識して設定した。	課題の与え方、評価の方法など、さらに研究を重ねていく。社会的事象や世の中のトレンドなど、タイムリーに敏感にキャッチできるようアンテナを常に高くしておくことが必要。
		③生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業について研究する。	・授業改善を行えたか。	③	B	授業ごとに学習の振り返りを行ったり、テーマを与えてディスカッションさせたりする授業も増えてきた。また、地域の人材や資源を活用して、専門家による講話や施設見学も取り入れた科目もあった。	主体的・対話的な学習活動の導入を進めていくには、授業内容の精選が欠かせない。授業担当者間の連携をより密にすることが求められる。また、教科内で指導方法の情報共有を図り、引き続き、教育的効果の高い指導方法を研究していく。
		④生徒の学びの幅を広げるため、ICT機器やオンライン学習システムなどを活用して新しい指導方法を研究する。	・新しい指導方法を導入できたか。	④	B	電子教材を導入して、生徒のタブレットに地図や資料などを配信したり、学習内容に関連する問いを配信して振り返りに活用したりした。	教科内で指導方法の情報共有を図り、他教科の情報も参考にしながら、引き続き、教育的効果の高い指導方法を研究していく。
数学	(1) (2) (5) (6)	①基礎学力の定着を図るとともに、応用力の充実を目指す。	・課題を定期的に提出させ、解法等をチェックすることができたか。	①	B	解法のチェックを行い、間違えやすい部分の傾向を把握し、授業に生かすことができた。	課題の効果的な取り組みについて研究を重ねていきたい。
		②ICTの利用を促進し、図やグラフ等を視覚に訴えることで、生徒の理解力を深める。また、ICTを活用した授業展開を研究する。	・ICTの効果的な活用について意見交換し、授業力の向上を図れたか。	②	B	ロイロノート等を利用した授業を展開し、効果的な活用方法について授業者が互いに意見交換する機会が増加した。	生徒の理解力が深まるようICTの効果を検証しながら、より効果的な活用について検討していきたい。
		③論理的に思考したことを「言語」によって表現できる能力を育成する。	・授業や提出課題、考査等で、生徒が論理的に発言、記述することができたか。	③	B	授業で重点的に考えさせ、考査問題に記述を要する問題を取り入れ確認することにより、論理的に解答できる生徒が徐々に増加した。	共通テスト等から数学の力だけでなく読解力、論理的に考え表現する力を養う必要がある。今後の授業内容についても検討を重ねたい。
理科	(1) (2) (6)	①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。	・自然の事物・現象についての理解を深められたか。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたか。	①	B	動画・スライド等を活用し、自然現象に対する理解を深めることができた。コロナ禍で、時間的には厳しかったが、実験・観察など適切に行うことができた。	観察・実験は科学的探究とって最も重要な活動であるため、今後もさらにユニバーサルデザイン等を取り入れて充実させていきたい。
		②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身についたか。	②	B	例年並みに実験を行うことができた。実験や観察を通して探究心を身につけることができた。	補習による個人ごとの実験や、指導は一定の成果が得られた。来年度以降も継続して実施したい。
		③自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・自然の事物・現象に主体的に関わることができたか。科学的に探究しようとする態度が身についたか。	③	B	アクティブラーニング等、生徒を主体とした学習を取り入れ、生徒の学び合いなどの活動を通して科学的に探究しようとする態度を育てることができた。ただ、声を出しての意見発表などは、コロナ対策を行った上での実行となった。	今後もアクティブラーニング等、生徒を主体とした学習の情報を教員間で共有しつつ、研究・実施を図りたい。
		④ICT機器を活用し、生徒への学習支援を行い、科学への理解度を深める。	・ICTの活用を通して自然の事物や現象について理解が深められたか。	④	B	Google classroomやロイロノートを活用して授業を行うことが出来た。電子黒板などの活用により、事物事象の解説や実験手順の説明など、効果的に伝えることができた。	ICT機器の利用、特にタブレット端末の活用などを推進し、授業の効率化を行いたい。

教科	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
保健体育	(2) (3) (5)	①運動に関する知識を深め、技能・体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、仲間と協力する姿勢を身につける。また、生涯スポーツにつながる資質や能力を育成する。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させられたか。集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、仲間との協力や運動の楽しさを実感させられたか。 ・安全管理は適切であったか。	①	A	多くの生徒が適切なルールの中で活動を実施することができた。互いに教え合ったり、補い合ったりすることで仲間と協力する姿が見られた。自らが楽しむだけではなく仲間と協力して行う楽しさを実感出来る生徒も増えてきた。 体育理論においては積極的にロイロノートなどを活用し、お互いの考えなどを共有しながら授業をおこなうことができた。	生徒がより主体的に活動に取り組めるような工夫が今後は必要になってくる。多様な運動経験が少ない生徒が多い中で、ミニゲームなどのルールや道具を工夫することで全員が楽しめる授業づくりをしていく。
		②健康の保持増進のための知識や実践力を身につけ、実生活において活用できる考えを育て、明るく豊かな活力のある生活を営む態度を育てる。	・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容の学びであったか。	②	A	保健の授業では積極的にICT機材を使った授業を展開し、一方的な授業ではなく、興味関心を抱くような授業作りを工夫することが出来た。ロイロノートを活用し意見の共有などをおこなった。グループワークを多く取り入れることで、生徒自身が発信する環境を作ることが出来た。	タブレットなどを使い、他者との情報共有などの機会を積極的に取り入れ、ICTを活用しながら、生徒が主体的に取り組める授業内容を工夫していきたい。また生徒同士の会話によるコミュニケーションの機会も増やしていきたい。
芸術	(2) (3) (6)	①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち、意欲的に取り組める教材設定ができたか。	①	B	生徒が興味関心を持てる教材設定は、概ね達成できていると考える。	更に、「生徒自ら」「意欲的に」取り組める教材の構築をしたい。
		②国内外の様々な芸術文化に関心を持ち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。	・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組むための生徒支援ができたか。	②	B	授業観察を通して、個々の能力を踏まえながら助言や指導を行うことが出来た。	生徒が課題に興味関心を持ち積極的な取り組みができるよう、今後も丁寧に観察・支援を行う。
		③新型コロナウイルス感染症対策として、対面授業ができない場合や単元の入れ替えが必要な場合、適切な教材選びと共に、ICTを活用した授業展開を推進する。	・ICTを活用した授業展開の研究は充分できたか。	③	B	学級閉鎖等で生徒が登校できない期間はGoogleMeet等リモート配信による授業を行った。また、通常時も電子黒板を活用して教材を見せたり、タブレットを使ったデジタルの作品づくりなどを行った。	今後はより効果的にICTの特性(例えば相互発信やリアルタイム更新など)を活用した教材や課題研究を行う。
外国語	(1) (2) (5)	①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。	①生徒の実態や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学力定着の工夫ができたか。	①	B	定期的な小テストや課題に加え、学年ごとに学習教材も工夫し生徒の能力に応じた指導を行った。	学力の個人差に応じた学習計画の設定を行っていき、新型コロナウイルス等による学級閉鎖等の事態にも対応出来るような工夫を図る。
		②グループ学習やプレゼンテーション活動を通して、生徒自身の意見を英語で発信する能力を育成する。	②生徒に意見を発信させる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。	②	B	ALTの授業を中心に、意見発信を生徒に求める機会を十分に確保した。特にライティング・スピーキング指導においては、各学年とも意見を考え、友人との意見交換も行い、英語で形にする活動を行った。	言語不安の大きい生徒にも積極的な支援を行っていき、授業や学習の満足度を高める。例えば、意見発信活動の際に、生徒に馴染みのある既習文法の活用も同時に行うような工夫を図る。
		③生徒の能動的な活動を通じて、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育成する。そのツールとしてICTの活用を研究する。	③知識定着に加え、言語活動を多く取り入れ、英語の運用能力を総合的に育成することができたか。そのためにICTを活用できたか。	③	B	・ペアワークやグループワークも取り入れ、プレゼンテーション、ドリル学習、ライティング練習、リーディング練習等をロイロノート等のツールを活用して行った。また、ALTとの授業などの多様な活動を通じて4技能を育てる指導ができた。	言語活動のバリエーションを増やし、英語運用能力と同時に、深い思考力を育成するような授業計画を練っていく。例えば、課外活動や他教科の学習をICTツールと絡めた教科横断型の授業も行っていきたい。
家庭	(2) (5) (6)	①急速に変化する社会の状況に目を向け、多様化する家族・家庭や生活様式について理解し、自らの生き方をデザインする姿勢を育成する。	・社会の出来事に興味を持たせ、現状を理解し、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。	①	B	生活設計や職業と働き方、結婚と家族等、自らの生き方について考える学習テーマを題材として扱い、社会の状況について理解を深める学習活動を取り入れることができた。	今後の社会の状況に注目しながら自分の生活と関連付けた学習活動を取り入れたい。
		②高校在学中に成年年齢を迎え、社会がより身近なものとなることから、適切な意思決定や消費行動について自ら考え、行動できる態度を養う。	・消費をめぐる様々な問題に対応するために、契約の重要性や消費者保護のしくみについて理解を深め、消費者問題に対応するための適切な指導、助言ができたか。	②	B	成年となった際の契約の重要性について、事例をもとに生徒自らが対応を考える機会を設け、契約に関する学習理解を深めることができた。	消費生活出前講座の活用と共に、金融教育についても指導方法の検討を進めたい。
		③「持続可能な社会」の実現に向けて、家庭生活や地域社会へ関心をもち、自ら課題を発見し、解決していくための知識や実践力を身につける。	・学習で得た知識・技術を活用し、生活を巡る様々な問題を意識させ、課題解決に向けた学習活動を充実させることができたか。 ・ICT機器を活用した教材作成を通して、生徒が主体的に学習する環境を整備することができたか。	③	A	新型コロナウィルス感染拡大時に対応するため、ICT機器を活用した教材作成や生活課題の解決につなげる学習指導について整備を進めることができた。	被服製作及び調理実習では、作業工程のスライド資料やワークシートの事前配信等を行い、ICTを活用しながら授業を進めている。
情報	(1) (3) (6)	①情報モラルについての基礎基本を定着させる。	・基礎的な知識理解ができたか。	①	B	コロナ禍でもあり、1カ月以上も欠課の生徒がいると、その生徒のみ、全く初回から指導しなくてはならず思うように進めないことがあった。通常通りに出席している生徒と、1カ月欠席した生徒では同じ課題をこなすことは難しい。また、突然の学級閉鎖となることもあり進度はコロナ前の例年よりも若干遅かったが、年度の後半かなり改善した。	コロナ対策として、あらかじめ、教科書及びサブノートは自宅に配置させている。基礎的な知識については、Googleクラスルームで授業内容の動画の配信を行ったため、期末考査の座学の範囲はカバーできた。今後もコロナの状態が平常化するようであれば、配信授業のさらなる充実を図る必要がある。
		②ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的操作を習得させる。	・基礎的な技能の習得ができたか。	②	A		
		③配信動画授業で、YouTubeやGooglemeetなどを導入した授業の実践とその研究を行う。	・ICTを活用して学校より配信された動画、Web授業等を家庭で受信でき、効果的に有効活用できたか。	③	A		